

## 平成 28 年度 第1回中央区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 8 月 26 日 (金) 午後 1 時 15 分から午後 2 時 45 分まで
会 場	市役所本館 6 階 講堂
出席者	中央区自治協議会委員 26 名 教育委員:藤田教育委員、上田教育委員 事務局:教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 中央公民館係長、中央区教育支援センター所長 他 3 名 中央区役所:地域課長補佐 傍聴者:1名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(藤田教育委員、上田教育委員) 3 平成 28 年度教育委員会の施策について(教育長) 4 意見交換(司会 中央区教育支援センター所長) 意見交換の視点 ・より良い地域づくりのために、地域の皆さんと、公民館などの社会教育施設や学校が協働してできることは ・地域で子どもを育てるために、地域と学校の関わりからみえてきた現状、今後必要と考える取り組み
自治協委員	新潟市立日和山小学校でコーディネーターをしています。2年前に豊照、湊、栄、入舟の4校が統合して1つの小学校となりました。小学校は1つ、コミュニティ協議会は4つでスタートしています。現在もその形で続いています。 「お寺でゴーン」という活動があるのですが、子供たちの早寝早起きを何とか体験型にできないかと始めました。今は、小学校と公民館だけではなく、4コミュニティ協議会にボランティアでお手伝いをお願いしています。 子供たちの教育には、学校の勉強はもちろんですが、それ以外に生きていくためにはやはり地域の方々とふれあい、地域の方々と語り合い、地域の方々がどれだけ地域を愛しているかを子どもたちに直に分からせるのが一番です。子どもたちは授業よりもやはり校外的な活動のほうが張り切ってやります。そういうところに地域の方がたくさん参加してくださるといのは、今後、子どもたちが成長するうえでとても大事だと思っています。 実際、なぜこれだけ活動が続いてきたかという、活動している子供たちが楽しいのはもちろんですが、そこにかかわってくださっている地域のボランティアの皆さんもとても楽しんでくださっているからです。子どもたちの笑顔を見て本当によかったと思ったださっているのです。学校での活動のボランティアも、日和山小であれば日和山応援隊、桜が丘小のボランティアの組織などそれぞれの学校にあります。学校教育に入っただけの一番ありがたいのですが、学校には入れないけれど、地域でなら手伝えるという方々も多分いらっしゃると思いますので、そういったところにも目を広げながらこの活動が続けられていけるといいなと思っています。

自治協委員

うちの学校では女池菜を育てる教育をしています。女池菜を育てる地域の方に来ていただいて、毎年女池菜を育てる子どもたちに教えています。子どもたちから女池菜の種を取りたいという希望があったのですが、農家の方からは、純粋な女池菜を育てることはだめと言われました。子どもたちは女池菜の花がどんなものかわからない。農家の方は純粋な女池菜を育てるために外へは出さないということでした。実際に私もその農家へ行ってみました。ハウスの中でネットをかけて慎重に、これは女池菜の種を取る菜っ葉ですということ、交配しないように本当に純粋な女池菜を育てていらっしゃいました。

来年からは、子どもたちを連れて見学に行き、こういう考えで厳重に交配しない純粋な女池菜を育てているところを見せてやりたいと思っています。子どもたちからは女池菜の花を咲かせて種を取りたいという希望がありましたが、それはかないませんでした。この場合教育委員会のほうでどのように考えておられるのか。

それから、私もいろいろな活動していますが、この資料に女池小学校が載っていない。宣伝不足なのかどうか分かりませんが、ぜひこの女池小学校も載せていただけたらありがたいと思います。

教育委員会  
事務局

子どもたちの要望を学習の中でかなえることも大事だと思うのですが、地域に目を向けたときに、農家の方の願いというのも子どもたちに学習させるいい機会になるのではないかと思います。純粋培養をして特産物としてこの地域に残していきたいという思いを子どもたちに伝えると、また見方が変わってくるのではないかと思います。そのように地域の素材をいかに子供たちに有効に体験させるかということ、学習の中でつかんでいただくことが大事になるのではないかと思います。そういうところを子どもたちに伝えると、「地域にこんな素晴らしいものがあつたんだ。もっと大事にしていかなければならない。」という気持ちを掘り起こすことができるのではないかと考えております。

本日の資料は、ドリームプロジェクトや、ウェルカム参観日に手を挙げた学校を載せています。ここに名前が出ていなくても、すべての小学校、中学校でたくさん活動をしています。

自治協委員

二年前に豊照小学校は統合され、現在、小学校は廃校のままの状態が残っております。この中にスポーツ振興のクラブがございました。日和山小学校へというお話があるのですが、夜間の活動で地域の者がそこまで行くというのは大変なのです。あれだけの設備をなぜ閉鎖して地域に開放しないのですか。

それから、校舎ですけど、従前は教育財産ということで行われておりました申請が、今度は一般財産ということで一年契約となりました。こういうものは事前に説明もなく、これに対する説明文もないのです。突然、一年という書類がまいりまして、これは毎年更新しなければならないという問題が出ております。これはなかなか煩雑な書類で、返ってきた書類も申請してから三月から四か月後に許可証がきているのです。これは中央区地域課からもご説明いただきまして、ある程度納得はいたしましたが、事前の説明もなく三年が一年になったのか。そのような文章をつけてご説明願えれば我々も納得するのですが、ただ1回の通知でこれは一年ですと。こう

いうやり方が本当にいいのかどうかご再考いただきたいと思います。

廃校の校舎の一部分を開放というか、貸していただけるのかどうかお聞きしたい。

教育長

今、ごみの収集場所は、市の許可をいただいて市道のうえに置いているのですが、校庭の一部を割愛して、そういうものを申請したら許可になるのかどうか十分お考えいただいて、もう少し実のある、愛のある配慮をお願いしたいと思います。

施設の関係課と確認させていただいて、できるだけ手間のかからない方向に検討していきたいと思います。

地域への開放についてですが、グラウンドなどについては、単発のときには職員も一緒に見てお貸ししておりますが、建物の中となりますと、電気なども止めております。建物を使用するとなると、そういった契約や設備の点検などで、年間数百万円という経費がかかることもございます。みなさんが使いたいという気持ちはわかりますし、できるものであればお使いいただきたいとは思いますが、施設の安全点検、整備をしないまま使って、何か事故が起きてはというのものもありますので、建物の開放については難しいと思っております。

ただ、単発でというときには、職員が一緒に見て、例えば、ここは気を付けてくださいとかをやりながら、対応はできるだけしたいと思っています。

自治協委員

今、年に四、五回、敬老会とか防災訓練をやるといってご配慮はいただいています。そういう配慮があるのであれば、なぜ地域のスポーツ団体に開放させていただけないのか。確かに光熱費や電気の問題などいろいろありますが、あの学校を統合するときに、地域の皆さんにどれだけ協力を願ったかという原点にお戻りいただいて、地域にもう少し還元するような施策をおとりいただけないかということです。

敬老会や防災ならいいが、夜間のスポーツ関係の開放は無理だという、こういう基準がどういうところにあるのか、広くそういうものを開示していただきたいのです。先ほど言ったように使う方、あるいは地域の身になって、教育というのはそういうものなのだろうと思うのです。

通り一遍の規則でこういうのではないのです。心ある地域に対して、子どもたちに対して接するのが教育なのです。それを忘れてもらっては困るのです。

教育長

今は、線引きと、単発のものについてなのですけれども、定期的なというのは、お断りさせていただいている状況です。ただ、本当に皆さんのご協力をいただいて統合させていただいたことは十分認識しております。本当に、できることとできないことがあって皆さんに申し訳ないところもあるのですけれども、できないのであればその理由を皆さんにきちんと説明するとか、本当に皆さんの気持ちに寄り添った対応をするように、職員にもそのように話をしていきたいと思っています。ありがとうございます。

自治協委員

寄居中学校の読み上げボランティアをやっております。テストの際の外国子女への読み上げです。日本語がわからないのです。聞くのはある程度理解できるけれども、読み書きができないと。そのために問題を読み上げるというお手伝いをずっとやっております。

そこで少し疑問があります。これは無理です。二年生、三年生それぞれ同じような共通の試験を、日本語でやっているのです。とても難しいです。日本人でも難しい

です。それをまだ日本語も拙い子女に同じような形で回答させる、それで点数をつける。矛盾です。新潟市は政令指定都市になって10年になる。国際化とうたっているわけですが、今日、見ていると小学校の問題、テーマが非常に多く、中学校が非常に少ないのです。このバランスはどうなのか、外国子女並びに帰国子女に対する小学校、特に中学校の方々に対するレベルアップをどのように教育委員会は取り組もうとしているのかが見えないのです。現況は、コーディネーターに丸投げで、本人たちの気持ちを察すると、私なら学校に行きたくないと思います。

それを教育委員会の皆様が実際に立ち会ってください。どれだけ厳しいものか。それでよく毎日通っていらっしゃるという思いです。

例えば、千葉県船橋市に有名な小学校があります。外国子女、全部集まって教育しているのは、恐らく日本でナンバーワンでしょう。また、葛飾小学校、中学校。そこはすごいです。そういうところに研修に行って、どういう教育をしているか、どういう形でレベルアップしているか、ぜひ研修してもらいたい。

新潟市には国際課がありますし、新潟大学にも留学されている方がいらっしゃいます。ボランティアで、実際クロスパルで勉強会をやっているのはよく知っていますが、そうではなく、実際の小学生、中学生が本当に対応できているかどうか。それを教育委員会はどのような対策を講じようとしているのか、その辺が見えていない。見えていなければ見えるように、ぜひお願いしたいと思います。

教育委員会  
事務局

外国人帰国子女の方々に対して、教育委員会としてどのように日本語のレベルアップなどを図っていくかということについてですが、今、学校支援課としてそのような帰国子女の方がいる学校につきましては、学校の要請により、国の言葉が分る人を学校へやっけて、週に一回とか回数も多くはないですが、言葉を教えたりと、取り組みは行っております。

ただ、それだけですと、今言われたようになりかなり難しい部分が大きくあると思います。今ほどの意見、とても貴重なご意見だと思しますので、持ち帰らせていただき、このような現状があるのだということで、これから十分考えていきたいと思っております。

自治協委員

地域と子どもとのふれあいの場として、自主防災訓練は重要なものと考えております。私どもの中学校では、実際に炊き出しの場所を携わってもらったり、AEDの訓練のときには補助員として、中学生から大いに活躍してもらっています。

一方、小学生の場合はいろいろと都合があると思っております。一部だけ、親と一緒に参加してもらっている子ども達もおります。先ほど言いました地域のふれあいとして重要な場だと思っておりますので、ぜひとも、親御さんと一緒に防災訓練に参加してもらいたいと思っております。要望ですけれどよろしくお願ひしたいと思います。

教育委員会  
事務局

本市におきましても、防災教育について、学校、地域の連携事業を進めております。中学校区ごとに小中学校と地域が連携して、その地域の実態に即した防災プログラムを作成して実施しているものになります。昨年度ですと、市内の34校で地域住民の方と一緒に防災プログラムを整備しております。

34校ですので、すべてのところではありませんが、このように防災教育の防災プログラムを活性化して、中学校、特に小学校あたりも一緒に参加する教育ができる

ように体制をさらに整えていきたいと思ひます。

自治協委員

地域の人たちが学校にかかわるのはなかなか、実は勇気がいることです。5、6年前になります、上山小学校の栄養士の先生から、地域の野菜を少しでも給食にという話がございまして、それこそ女池菜とかネギとか茄子とか、本当にわずかなのですけれども始めましたが、その先生がほかに赴任されますとそういう話がなくなるのです。やはり熱心な先生とそうでない先生、こういうものかと思ひました。

今、私どもと先生方もコーディネーターと一緒に、「野菜の先生」という依頼があり、三年生ぐらいでしょうか、トマトやナス、鉢物を買って育てることにかかわっております。最初は何を教えたらいのだからというところから始まりましたが、幸いJAの栽培技術員の方がいらっしゃいましたので、どう育て方をすればよいか、また元気に育てるには予防はというお話を聞きまして、子どもたちの質問に答えられるように、私どもも勉強して楽しく子どもたちとふれあうことになりました。

学校の登下校のときにも野菜の先生だと言われるとうれしくなりますし、私たちが畑にいるときも、子どもたちが手を振ってくれたりしますので、そういう点はとてもよかったと思ひます。地域の人たちも、学校と少しでもふれあうことでつながりがあるということはとてもいいことだと思ひました。そういう点でも、やる気のある先生とそうでない先生にはとても違いがあるなと感じました。せめて地域の人たちとのふれあいを少しでも大事にしていきたいと思ひます。

自治協委員

学校と私たち地域住民の間でメールでの「安心有明台」という通信があります。内容は、学校が地域の皆さんに知っていただきたいことを伝えてくるものです。先日も全小学校で農業体験学習を実施ということで、アグリパークで四年生が寝泊まりして学習しました。第1日目に何をして何日は何をした、子どもたちはこうでしたと。とてもリアルでした。

こればかりではなく、佐渡に旅行に行くと報告が来ますし、そのほかに大変短い文章で要点よく報告がきます。これは素晴らしい連携プレーの一つだと思ひます。

今までとは違うなど。メールで、今ある機器を利用してそのようにやれるのはいいと思ひます。

この地域の連携の大事な視点は、ただ一方的に教えるということではなくて、そのやり方の中で必ず考える時間を与える。「これは何でしょう」、「これはいつごろのことか」、「いつどんなときに使ったことかわかりますか」と、何でも一つのことを考えさせるというやり方です。防災教育についても同じです。県民会館前に女性教師が子どもたちを引率している像があります。あれは新潟地震のときに白山小学校の女の先生が子どもたちを一斉に、津波がくるから逃げようという姿です。これは何だろうと、画像を出してやるわけです。そうするとわかります。新潟地震はメモリアルのような、中越地震や中越沖地震のように記念のものが何もないけれども、県民会館の前にそれがあつたという、「えー」という。そうやって考えさせるということ。

次は、あいさつする子ども。おはようございましてあいさつする。元気よくあいさつする。あいさつする地域の子ども、これは大事です。

黙っていくのではなくて、声をあげておはようございまして。全校の子どもたちが

声を上げるということが、子どもたちが地域の中に根ざしている証です。そういう立場で私はやっているということを報告させていただきました。

自治協委員

私はいろいろな学校で料理教室をやっているのですが、今、全国的に話題になっているこども食堂を、教育委員会としてどうお考えになっているのでしょうか。

こども食堂というのは、貧困家庭のご飯があまり食べられないような家庭の子どもを対象にしたものをこども食堂といったのだそうです。

今は夕ご飯を一人で食べる、両親が共働きで8時くらいまで帰ってこない、子供たちは千円渡されて、コンビニなどに行って自分で好きなものを買って食べるということが問題になっていると聞いております。子どもたちの味覚もだんだん薄れてきて、同じものばかり食べているから味覚教育も必要ではないかということで、東京都は味覚教育を始めたと聞いています。

新潟市でも、テレビで生協が手を挙げて食材の期限切れ間近なものをこども食堂に提供されたと聞きました。私どもコミュニティ協議会としても、そういった一人で夕ご飯を食べる子どもたちを何とかしようということで、今、いろいろ模索しているのですが、教育委員会としてそのへんをどうお考えになっているのか。

こども食堂は空き家対策にもなるかとコミュニティ協議会単位では考えております。そのあたりもお聞かせいただければと思います。三食を規則正しく食べることをうたっておりますが、なかなか実行できないと思っていますので、ぜひご意見をお伺いしたいと思います。

教育長

貧困でなかなか食べられない子どもたちだけということから、今は一人で食べる「孤食」について、居場所づくりも含めて増えているということです。ただ、それは行政がやるというよりも、やはりNPOの方ですとか民間の方々のボランティアを含めてやっていただいているということです。確かに空き家対策ということもあります。

子ども未来課など、子ども子育ての福祉の担当課を含めた全市的なことと考えています。教育委員会が率先してということまでは考えておりませんが、子どもたちに何が必要なのか、教育委員会として何かできることがあるのかどうかを考えていきたいと思っています。

教育委員

今日は、どうもありがとうございました。

先ほどのご意見で、私が実際にやった事例をお伝えしたいと思っています。私の日本語教室に中国人の四年生の子どもが、全く何も話せない状態でやってきました。日本語の話せる中国人と日本人のスタッフ二人体制で半年間、週に1回2時間ずつ教えました。半年たったらその子どもが突然話し始めました。普段、学校で日本語のシャワーの中にいるので、単語さえ教えてあげれば話せるようになりました。もし今日のように声をあげてくださると、みんな助けてあげたいと思う日本語教室の方がたくさんいらっしゃると思います。

昨年度、全区に外国人を対象とした日本語教室ができました。今回お話しを伺いましたので、そのネットワークを通じて、ぜひ、帰国子女の子どもたちを個人的に助けてあげたいと思います。それから、皆様から声をあげてもらわないと助けることができないので、困っていることがありましたら、教えていただきたいと思います。

自治協委員

ありがとうございます。後日、教育委員の方からそういう話があったということで、私からも連絡します。うまく連動できればと思います。

教育委員

今日は、貴重なご意見ありがとうございました。

このようなミーティングの中で、公民館活動などをするとき子どもたちに「つまらない」と言われるとか、事業を続けても継続しないというお話をよく耳にすることもあるのですが、今日、取り組みのお話を聞いたときに、どんどん事業が広がっているということで、とても参考になりました。何かやるときに、どういう形でかかわっていくかというのもとても必要なことだろうと思います。

防災の話もありましたが、東区のウェルカム参観日を拝見して、地域で企画してもなかなか子どもたちが集まらないから、学校に手伝ってくださいと話を持っていたそうです。川があふれたときに、どこが決壊するとかいっても学校の先生方は地元の人ではないから分かりません。そういったときは地元の人たちの出番で、川が決壊したときにはここが避難所になるのだとか、ここが高いのだとか、ここは地盤が緩いのだと、長く地域に住まれた方はそういうご意見をもっていらっしゃって、先生方も話を聞いてとても参考になったという話をされていました。

先生方も、東日本大震災の映像を流して、子どもたちに地震はこれだけ怖いものだということを見せようという話をしていたそうです。通り一遍の教科書の勉強をするよりも、子どもたちの気持ちを考えて、見せる映像をどうするか、防災をどうやって伝えようかということを考え、それを通して熱いディスカッションができたというのはとてもよかったと聞いています。そういったことをうまく生かせればと思います。

帰国子女の話もございましたが、国語などを同じようにやるというのは大変だと思います。場合によっては数学とか算数とか、世界各国に似たようなものもあるので、それをきっかけに少しずつ言葉に慣れ、自信を深めていけるのではと思いました。

議 事

5 中央区自治協議会会長挨拶

6 閉会